

研究の概要

1 研究主題

「学び合い、考えを深める子どもの育成」
～言葉による見方・考え方を働かせた「読むこと」の指導を通して～

2 主題設定の理由

昨年度から、国語科を研究教科とし、領域を「読むこと」に絞って全校で取り組んできた。授業研究会を中心とする研究を通して、叙述を根拠にして読み取っていかこうとする姿が見られるようになってきた。しかし、文章の全体を捉えて展開を把握したり、単元の中で自分が身に付けた力を自覚し、他の活動で生かしたりする態度はまだ十分とはいえない。また、読書量に関して、個人差が大きいことや、語彙が不足していることにより、言葉の意味理解がきちんとできていない場合もある。

そこで、今年度も、国語科の「読むこと」に絞り、子どもたちが文章を正確に理解したり適切に表現したりする確かな言葉の力を付けられるよう、全校で取り組んでいくこととする。そのために、教材によって付けたい力を明確にするとともに、秋田の「探究型授業」の基本プロセスを基盤とした本校の学習スタイルを確立していきたい。また、文章を正確に読み取ったり、考えたことを伝え合ったりできるように、学習の中で着目すべき言葉を明確にしたり、朝学習で言語に関する活動を行う時間を設定したりして、語彙力の向上を図る。その上で、主体的・対話的な学習過程を工夫し、読む力を付けていきたい。

以上の手立てにより、一人一人に豊かな言葉の力を育み、確かな学力につなげられるよう実践を積み重ねていきたいと考え、本主題を設定した。

3 目指す子どもの姿

「言葉による見方・考え方」を働かせながら、主体的に考え、学び合う子ども

4 研究の仮説と具体的施策

- (1) 豊かな言葉を身に付けるための言語活動を積み重ねることで、正確に読み取ったり的確に表現したりする力が身に付くだろう。
 - 表現力を培い、語彙を増やすための言語活動
 - ・言葉タイムを設定し(朝学習)、言葉遊びや言葉集めを行う。
 - ・「言葉の玉手箱」ファイルに、観点に基づいて集めた言葉を記録していく。
 - ・読書タイムの充実を図る。
 - 学習活動を支える言語環境の整備
 - ICTや学校図書館の活用

- (2) 1単位時間のねらいを明確にし、それを達成するための学習過程を工夫することで、文章を読み取る力が付くだろう。
 - 協一小学習スタイルの確立
 - 「見方・考え方」を働かせる課題・めあての設定
 - 読み取る力を付けるための手立ての工夫
 - ・「10の観点」を活用した教材研究
 - ・「読み取りお助けシート」の活用
 - ・「全文シート」の活用
 - 学びの深まりや自己の変容を実感できる振り返りの視点の提示

5 脇一小の学習スタイルについて

単元計画

教材研究	『文学作品・説明文を読むための10の視点』を活用し、「言葉による見方・考え方」の中の何を、単元のどこで働かせて読んでいくのかを明確にする。
導入	・初発の感想で生まれる「一人一人の問い」を学習課題づくりに生かしていく。 ※主体的に学ぶ姿を、「自分が選んだ・考えた・決めた等のことに、試行錯誤しながら粘り強く取り組んでいる姿」と捉え、子どもたちが、主体的に作品に向き合いながら学習を進めていくために、最初に自分が抱いた「どうしてだろう・なぜ」という疑問を解決したいという思いを大切にしていく。
中盤	・本文の読み取りにおいては、単元計画に位置付けた「言葉による見方・考え方」を子どもたちが意識して働かせられるようにしていく。
終盤	・最初に自分が疑問に思ったことが、どうしたら解決したのか、初めに読んだときとの感想の変化などを振り返ることで、自己の変容に気付けるようにする。

1 単元時間の学習過程

つかむ	・課題（めあて）をつかむ。 ・見通しを全体で共有する。 ※何に目を付けて考えていけばよいかという解決のための見通しをもつ。
追究する	・自分の考えをもつための自力解決の時間を設定する。 ・自分の考えを確かな物にしたり、自分が気付かなかった友達の考えを知ることで見方・考え方を広げたりできるよう、ペアやグループ、全体で考えを共有する場を設定する。
まとめる 振り返る	・学習において身に付けた力を自覚化できるよう、振り返りの視点を提示する。